

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

株式会社フィールズ

## ②施設・事業所情報

名称：なかじま保育園	種別：地域型保育事業
代表者氏名：山口節	定員（利用人数）：19名（15名）
所在地：〒210-0806 川崎市川崎区中島1-4-2	
TEL：044-223-6721	
ホームページ：https://www.majima-fukushikai.in/facilitv/nakajimans	
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：平成28年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人馬島福社会	
職員数	常勤職員：7名 非常勤職員：6名
専門職員	（専門職の名称） 名
	保育士：9名 保育補助：1名
	看護師：1名 事務員：1名
施設・設備の概要	（居室数）保育室：3 トイレ：2 調理室：1 事務室：1
	（設備等）園庭：なし

## ③理念・基本方針

<p>保育理念</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・0歳児からの道徳心を理念に、人として守るべき行いの大切さや思いやりの心を育てる保育を目指します。</li> </ul> <p>保育方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々に寄り添った保育を行い探求心を満たし、表現する力や感性を育てていきます。</li> <li>・いろいろな人との関わりの中で、人と関わる楽しさや思いやりの心、自主性・協調性などを育てていきます。</li> <li>・食べ物に興味や関心が持てる子どもを目指し、年齢に適した食育活動をしていきます。</li> </ul> <p>保育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心身共に健康な子ども</li> <li>・思いやりの心を持った子ども</li> <li>・自分を表現できる子ども</li> </ul>
---

## ④施設・事業所の特徴的な取組

- ・小規模保育園ならではの家庭的な保育
- ・同法人内での異年齢交流（老人ホーム訪問）

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和3年12月15日（契約日）～ 令和4年4月21日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	- 回（ 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1)子ども一人ひとりに全職員で寄り添う保育

保育方針にもとづき、全職員で、一人ひとりに寄り添う保育を実践しています。職員会議や昼礼で情報を共有するほか、日常的に連絡や連携を取り合っています。常勤職員だけでなく、看護師をはじめとする非常勤職員や外部委託業者の調理職員も個々の子どもの発育、発達の様子や活動の様子などを適確に把握し、一人ひとりに向き合っています。協力しあいながら、保育環境や活動内容の見直し、食育、手作りおもちゃなどに積極的に取り組んでいます。子どもが健やかな心と体で安心して過ごし、一人ひとりが主体的に活動できるようにしています。

2)保護者と共にある保育

保護者一人ひとりとの対話を大切にしています。手書きにこだわった連絡帳は保護者に必ず手渡ししながら、子どものその日のエピソードや活動内容を直接伝えています。事務室や調理室にいつでも立ち寄って話や相談などがしやすいような雰囲気づくりを心がけ、職員はクラスに関わらず全員の保護者に声かけしています。全職員で子どもに関わっていることで保護者の安心感が得られるようにしています。日常会話や普段の様子から保護者の意向や気持ちを汲み取るように心がけています。保護者に寄り添い、一緒に考え、子どもの成長を共に喜べるような関りを持っています。

3)保育活動を広げる工夫

園の近くにはさまざまな公園があり、積極的に出かけて子どもたちは楽しく身体を動かしています。0歳児クラスはどの職員とも関係性が築けるよう、中心に関わる職員を3ヶ月を目安に替えるようにしています。1、2歳児クラスは、子どもの自我の育ちを受けとめ、その気持ちを引き出すこと、環境を整えることを工夫しています。コロナ禍で休止中ですが、散歩途中にある高齢者通所施設の利用者との交流、同法人が運営する高齢者施設との定期的な交流、他園交流などの機会を設けています。絵本の読み聞かせボランティアの来訪もあり、子どもの生活と遊びが豊かに展開されるようにしています。

◇改善を求められる点

1)マニュアルの整備と活用

業務の標準化のための保育に必要な各種マニュアル類について未整備なものがあります。マニュアルにもとづいた適切な対応をするための読み合わせを含む園内研修や訓練についても不十分な面があります。PDCAサイクルを参考に標準的な実施方法について継続的に行えるよう、さらなる仕組み作りの検討が期待されます。

2)保育所の自己評価

年1回、職員個人の自己評価をし、振り返りをしていますが、個々の評価までとなり、互いの学び合いや意識の向上につなげるまでに至っていません。職員の自己評価結果から明らかになった課題をまとめたり、保護者アンケートの結果を反映したりしながら園全体の自己評価をし、併せて公表することも期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、初めて第三者評価を受けてみて保護者の方からは肯定的な意見があったことを嬉しく思うと共に継続していかなくてはいけないなと思いました。

小規模保育園ということもあり、在園期間が短いこともあるのか？保護者からの意見が少なかったのもっと保護者とのかかわりを密にしていき、意見を聞いてみたいと思いました。

今まで保育者から意見の聞き取りをしていたつもりでしたが、文章にしてもらったことで職員の考えなども見えてきたので今後も職員からの聞き取り方法として取り入れていきたいと思います。

評価委員の方からも保育園がより良くなるためのアドバイスをいただいているので、職員同士で連携をとりながら更なる発展を目指していきたいと思います。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり